

学年	1年	時間	学級活動 「じしんがきた!」1年	時期	9月上旬 (避難訓練前)	時数	1時間(45分間)
目標	<ul style="list-style-type: none"> 地震のとき自分の身の回りに起こる災害の危険を知る。 揺れているときに自分の命を守るための方法を知り、安全に行動することができるようにする。 						
資料・準備	スライド(文部科学省・防災教育教材「災害から命を守るために」(H20.3)低学年・地震①「地しんがきた!」)ワークシート(文科省CD内)、地震被害写真、リーフレット、緊急地震速報アラーム音						

※ 1-14と1-15を同時に指導する場合(避難訓練の事前指導として一連の行動指導の場合など)

※(流れ) 1-14の導入、1-14・1-15の展開(海・山の近くを除く)、1-14・1-15のまとめ

※ 1-14・1-15の海・山の近くにいる場合の部分は、次回に短学活で指導することとする。

展開

	学習活動と内容 主な発問・指示(◇) 予想される児童の反応(・)	指導上の留意点 支援(○) 評価(☆)
導入	1. 大きな地震の災害について学習することを知る。 ◇わたしたちの住んでいる()で大きな地震が起こったときのことについて考えてみましょう。 [スライド1を提示] ◇大きな地震が発生すると学校や家、まちはどうなってしまうのでしょうか。 ・家が壊れる ・火事になる ・津波がくる	○大地震が発生するとどのような被害が発生するの想像させる。 (テレビ報道や家の人の話など思い起こさせる) ○実際の被害写真等、準備して見せるが、児童の心理的負担にならない程度のものにとどめる。
展開	2. 様々な場所で地震が起こったらどのような状況になるか想像し、地震が起きたときどのような危険があるか、どのように身を守ればよいか考える。 [地震が起きたら、どうしたらいいでしょう。] [スライド2を1場面ずつ提示・作業・解答] ◇絵を見て、学校にいるとき地震が起きたらどんなところが危ないでしょう。危ないと思うところに○を付けてみましょう。(ワークシート書き込み) ◇けがをしないために、自分だったらどうしますか。 ・危険なものから離れる (全員で確認する) ・防災頭巾などで頭を守る ・机の下に潜る [スライド3~5を提示] ◇自分の家にいるとき/外にいるとき/海や山の近くにいるときに地震が起きたらこんな所に気をつけて自分の身を守りましょう。	○ワークシートを配布し、記入させる。 ○状況や場所を具体的に示して想像させる。 (教室で授業中、廊下、休み時間の校庭、体育館で授業中など) ○丸を付けた所とその理由を発表させる。 ○スライドを見せ、主な危険を説明する。 ○避難の仕方、身の守り方について指導する。 ・あわてて行動しない ・危険なものから離れる ・防災頭巾などで頭を守る ・机の下に潜る ・校庭や体育館の中心に集まる ○状況や場所を具体的に示し想像させる。 <自宅>リビング <外>通学路 <海・山の近く> ○自宅や外、海や山の近くの危険箇所や身の守り方についてスライドを順次映し出し、教師が主なものについて児童から聞き出しながら指導していく。 <自宅>・テーブルや机の下に潜る ・倒れてきそうな家具から離れる ・座布団やクッションなどで頭を守る <外で>・ブロック塀や自動販売機から離れる ・丈夫な建物の中に避難する ・かばんなどで頭を守る ○教師の体験談(鳥取県西部地震、阪神淡路大震災) ○地域の海や山を具体的に示して想像させる。周辺にない場合、遊びに行った場合を考えさせる。 <海>・高台へ <山>・崩れそうな崖から離れる ○東日本大震災の「釜石の奇跡」の話をする。 ☆ワークシート記入を通して地震時の周りの変化や、予想される危険な事態について理解できたか。
まとめ	3 スライド6を提示後、実際に回避行動を試みる。 ◇地震が起こったら、自分の身を守ることが一番大切です。それでは今、緊急地震速報が流れたとして、自分の身を守る行動を実際にやってみましょう。	○近年の主な地震の発生時刻から、地震はいつ起こるか分からないことや緊急地震速報について伝え、アラーム音を流して対応行動訓練を実施してまとめる。 ☆安全に行動する姿勢が身に付いたか。

関連する教科・領域等	(生活) がっこうたんけん(5月)、こうていたんけん(5月)、わたしのつうがくる(6月) (短学活)「じしんがおさまったら」1年 (学校行事) 避難訓練(地震)(9月)
関係団体	